

令和元年度 佐賀県立鳥栖商業高等学校 学校評価結果

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
生徒一人ひとりの「生き抜く力」を育み、経済社会の変化に十分対応でき、平和な国家および社会の有為な形成者として、幅広い知識と豊かな心を有する、専門的知識と技能を身に付けた、心身ともに健康で実践力に富んだ人間を育成する。	①「自ら考え、行動する」姿勢の育成 ②「自分と他人を愛する」心の育成 ③「夢の実現のためにベストを尽くす」姿勢の育成 ④「失敗を恐れずチャレンジする」姿勢の育成 ⑤「教師と生徒が業務改善に心がけ、綺麗で安心な学校をみんなで作る」 ⑥「高校魅力づくりの推進」 ⑦「教職員の研修強化、ICT活用教育の推進をする」

3 目標・評価						成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
①「自ら考え、行動する」姿勢の育成					達成度		
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方法			
教育活動	●学力向上	・基礎学力テスト成績向上 ・家庭学習の定着	・基礎学力テストにおいて県受検者の上位10%に30名以上を目指す。 ・家庭学習時間を平日平均1時間以上を目指す。	・事前模擬テストや対策学習会などの実施 ・家庭学習時間調査を通して、家庭学習を増やす呼びかけや学習用PCを使ったICT教材の提供を行う。	B	・各学期毎に成績が振るわない生徒に対し、学習会を学年毎に実施した。(全学年) ・平均学習時間が1日51分で、目標の1時間は達成できつつある。一方、全く学習しない割合が15%程度いるという問題点もある。教科書では授業理解姿勢は100%、課題の取組は91%とよい傾向の結果が表れており、落ち着いた学習状況を示している。(1学年)	・テスト前の対策を行うとともに、家庭学習の習慣のない生徒に対して、各教科に家庭学習用の課題を課してもらう等の指導をしてもらう。 ・今回導入のテストでは各教科平均80点前後であり、レベルに問題があった。(1学年)よって、テストのレベルを上げ、学習意欲につなげ、学年を通して計画的に行い、学力の向上を目指していく。
教育活動	●心の教育	・読書を通して豊かな心を育み、自尊感情を高める ・感謝や思いやりの心の醸成	・図書館利用者の増加を図り、一人当たりの貸出冊数年間15冊以上を目指す ・朝読書を充実させる。 ・図書委員の活動の場を増やす。	・新刊だよりの発行、図書委員や各授業担当者からの推薦本等の紹介を通して、読書数の増大を図る。 ・朝読書は、図書委員を中心に行う。時間前に準備をし早めに読書をする環境をつくる。また、移動図書も行う。 ・校内読書会の企画・運営を図書委員で行う。今後も続けていく	A	・貸出数、利用者数ともに昨年度から大幅に増加している。(1人当たり平均貸出冊数17.5冊) 三神地区の高校では、トップの数値である。今後は、「読書の質」を高めるような指導に力を入れていきたい。 ・校内読書会の企画・運営を図書委員で行えた。今後も続けていく	・図書委員会を中心に、本の魅力を伝えることを目的とした新しい企画を実行する。図書委員による図書館だよりの発行をする。 ・「朝読書」に自主的に取り組む体制づくりをする。
②「自分と他人を愛する」心の育成							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方法			
教育活動	●いじめ問題への対応	いじめ事案撲滅と未然防止及び早期対応	・いじめと疑われる事案が発生したら、3日以内に対応を開始する。 ・生徒指導、教育相談、担任、顧問と連携して、生徒が相談しやすい雰囲気を作る。	・いじめアンケートを年3回実施する。 ・三者面談や面談週間では必ずいじめについて言及する。	B	1、2学期末に紙媒体での「いじめアンケート」を実施し、3日以内に対応を開始することができた。いじめの初期対応に手間取り、解決が長引いたケースがあったが、各部署との連携をはかることはできた。初期対応を丁寧にすることが今後の課題である。	・心理検査を実施して、いじめの防止に役立てる。 ・いじめ事案が発生した場合、関係者で情報交換を密にして解決を図る。
教育活動	○マナー教育の充実	規範意識や自尊感情を高め、感謝の気持ちや思いやりの心を育てる	・生徒指導部による再検査率を生徒数の10%以下にする。	・身だしなみ指導前に、頭髮などについて呼びかける。 ・身だしなみ指導のみならず日常生活において常に観察や指導を行い生徒自らが規範意識を向上させる指導を行う。	B	・身だしなみ指導前の呼びかけ、視度の説明などをおとして再指導は若干減少した。 ・身だしなみは社会人としての基本であることを認識させたが、集団で行動する際のマナーは改善の余地がある。	・身だしなみを整えることは進路にも直結するため、引き続き継続した指導を行う。 ・どのような場面でも礼節をわきまえた行動をできるよう注意喚起していく。
③「夢の実現のためにベストを尽くす」姿勢の育成							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方法			
教育活動	○商業教育	資格取得の充実および商業教育の可視化を目指した取組みの構築	○資格取得の充実における各種検定の目標合格率および取得率<lt簿記関連>> ・全商簿記検定2級合格率90%以上(1年商業科) ・全商簿記検定1級合計75%以上(2年商業科) ・全商簿記検定1級原価計算85%以上(3年ビジネスコース、2年会計コース) ・日商簿記検定2級取得率60%以上(2年会計コース) <<情報処理関連>> ・全商情報処理検定3級合格率100%(1年商業科) ・全商情報処理検定1級7073シグ部門合格率80%以上(2年情報科) ・全商情報処理検定1級ビジネス情報部門合格率60%以上(2年情報科) <<流通経済関連>> ・全商商業経済検定3級100%(1年商業科) ・全商商業経済検定マーケティング合格率70%以上(2年流通経済科) ・日商リテールマーケティング検定3級合格率60%以上(3年流通経済科) <<その他>> ・全商検定1級多職種(3職種以上)取得者の増加および高度資格取得者の拡大 ○商業教育の可視化を目指した取組目標 ・社会性やコミュニケーション能力の向上、自主的な生徒の育成を図るための取組と取組の深化	・検定科目については、チームティーチングで授業を行い、生徒の習熟度に応じた指導を行う。 ・簿記・情報処理・マーケティングは、各検定直前週に特別指導補習を行う(日商簿記検定2級の受験対策として週2回の特別課を実施)。 ・外部講師招聘による授業や講演会を実施する。 ・地域のイベントや研修会への積極的な参加やコンテストへの応募など校外活動の機会を増やす。	B	○各種検定における合格率(結果) <<簿記関連>> ・全商簿記検定2級合格率(1年商業科) 75.5% ・全商簿記検定1級合計(2年商業科) 75.9% ・全商簿記検定1級原価計算(3年ビジネス、2年会計) 47.0% ・日商簿記検定2級取得率(2年会計) 未定(2月23日検定受験予定) <<情報処理関連>> ・全商情報処理検定3級合格率(1年商業科) 99.0% ・全商情報処理検定1級7073シグ部門合格率(2年情報科) 57.5% ・全商情報処理検定1級ビジネス情報部門合格率(2年情報科) 51.5% <<流通経済関連>> ・全商商業経済検定3級(1年) 95.6% ・全商商業経済検定マーケティング合格率(2年流通経済科) 73.7% ・日商リテールマーケティング合格率(3年流通経済科) 79.4% <<その他>> ・全商検定1級5職種14名、6職種取得者が3名、意欲的に資格取得に取り組む生徒が多かった。 ・流通経済科では商品開発を行い、市のイベントにおいて、アイスクリームの販売を行った。また、佐賀県高等学校生徒商業研究発表大会で最優秀賞を受賞し、九州大会へ出場した。 ・検定取得に向けた補習や個別指導、外部講師などによる講義などを実施し、指導の充実を図った。 理屈だけでなく、地域への発信、社会への貢献を目指す。商品づくりを通じて、地域の活性化を図る。	・商業科目の授業において地域の課題や、経済社会の動向を捉えることにより、資格取得の意義や必要性を理解させ、自ら進んで学習する姿勢を身に付けさせる指導が必要である。 ・ICT機器の有効的な活用方法や高度な知識の習得のため職員研修などへの積極的な参加を促し、指導者のレベルアップを図る。 ・資格取得だけにとらわれず、思考力や表現力を高めるような授業展開が必要である。また、市町等との連携を密にし、体験的な学習を通して地域の課題の解決など地域活性化に資する取組みを行うことにより、地域貢献の喜びや達成感を感ずる機会を増やす。
教育活動	○心技体の育成	・文武両道を目指す ・部活動や生徒会活動の広報	・各幹部活動で全国大会出場や研究大会の入賞を果たし、部活動を通して、達成感や自信、自己肯定感を育ませ、将来の夢や希望を持たせる。 ・部活動重視にならないよう、学習時間を確保できる環境作りを行う。 ・優秀な成績をおさめた生徒が更なる飛躍ができるような啓発活動と広報活動に努める。	・部活動での取組を校内外に披露する機会や、大会出場の情報や入賞、受賞の際の表彰などをメディアとの協力を得て、校内外に周知する機会を増やす。 ・全校集会での表彰や、鳥栖商だよりを活用した啓発・広報活動を行う。 ・部顧問の協力体制をより深め、学習時間の確保に努める。		・バレーボール部や情報処理部、OAO部などが全国大会に出場するなど成果を残した。 ・鳥栖商だよりについては、生徒、保護者に加え、地域の方々への配布等にも力を入れた。 ・課後の部活時間短縮や、考査前の活動中止、土日の休業日など学習時間の確保に努めた。	・各部活動で、心の指導を重視した年間計画を行う。 ・生徒会を中心とした、学校全体としての取り組みを企画する。 ・生徒が自主的活動を推進できる環境づくり。
④「失敗を恐れずチャレンジする」姿勢の育成							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方法			
教育活動	●志を高める教育	・生徒のキャリア観の育成	・キャリア教育を通して、生徒が自分の進路について考えることができた割合を95%以上にする。	・1年次では進路啓発事業、2年次ではインターンシップ、3年次では進路実現などの活動を通して、将来の進路について考えさせる。 ・キャリアガイダンスの実施および外部説明会への積極的な参加を推進する。 ・外部講師を招き、望ましい勤労観や職業観についての講演会やマナー講習を実施する。 ・LHRや学年集会などを利用して進路学習を実施する。	B	・1年次の進路啓発事業、2年次のインターンシップ、3年次の進路実現のための諸活動では、各学年団の協力のおかげもあり、それぞれの活動目標を十分に達成できた。 ・キャリアガイダンスや外部講師の講話などを計画的に実施することで、生徒の進路意識の向上に効果的に役立てることができた。 ・3年間を通じたキャリア学習をどのように発展・充実させていくのか、学年団と進路指導部との連携を緊密に図っていくことが今後の課題である。	・生徒の3年間の高校生活を見据え、より体系的・計画的なキャリア活動となるように改善していく必要がある。 ・1年次で実施している進路検査をさらに効果的に活用できるよう、担任団と連携しながら工夫をしていく。 ・2年次のインターンシップの経験を3年次の進路選択へスムーズにつなげていくことが出来るように、事前指導や事後指導にさらなる工夫をしていく。
教育活動	○進路希望の達成	生徒の進路実現	・進路内定率(就職・進学)100%を達成する。	・2年次から面接指導を行う。 ・就職希望者は、夏休み学習会を行い、学力向上に努める。 ・進学期補習や小論文指導などを行い、生徒に積極的な参加を促す。 ・公務員対策講座を開設する。	A	・面接指導や学習会などでは、多くの職員と連携して生徒の指導にあたったことで、比較的早期に高い進路内定率(就職・進学)を挙げることができた。 ・専門学校との連携もあり、公務員志望者についても複数の合格者を出すことができた。	・経易度の高い進路志望を持っている生徒に対し、できるだけ早い段階で生徒の意識向上を図り、計画的・組織的な指導や助言を行っていく。
⑤「教師と生徒が業務改善に心がけ、綺麗で安心な学校をみんなで作る」							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方法			
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化と教職員の連携促進	・単純な前例踏襲でない、効率的な業務遂行を工夫する。 ・自主的な校内外のボランティア活動を通して、奉仕の精神、他者への思いやりの心を育む。 ・商品開発や販売実習をおとして地域連携や高校の魅力を高める	・運営委員会を中心として、行事・企画を精選するとともに各セクション間の連携を密にすることで連携強化を図る。 ・明るく挨拶と笑顔、感謝の言葉が飛び交う職員室になるよう働きかけ、生徒と落ち着いて向き合える雰囲気を作る。 ・原則毎週月曜日を定時退勤日とする。	C	・アンケート等により各分掌、係の課題点を職員で共有することが概ねできた。 ・クラス減減にともなう人員減や働き方改革関連法施行等も勘案し、業務の効率化や見直しについて各分掌で工夫を重ねていきたい。 ・部活動指導に関係する長時間労働については、すべての部活動において、週1日以上休日を設けることができていく。	・校内教育活動全般にわたる課題に対して、解決のための提案、改善案等を職員で共有し、解決にむけた連携を図る。また各分掌会議等での情報提供やアンケート等を利用した確認を年1回以上行っていく。 ・学校や生徒に関係や関連性が少ない行事等については、働き方における意識改革を考慮に入れながら立案、計画する。
学校運営	○安全な学校	交通事故や生活事故件数を減らす	・発生件数を前年度比の50%以下にする。	・事故発生事例を適宜生徒に周知し、特に路地や店舗から道路に出る際に接触事故が多く発生していることから、自ら危険防止のための対策、予測を行うよう指導する。	B	・事故発生事例や危険性は集会やホームルームにて注意喚起したが、軽微な事故が増加し目標を達成できなかった。インターネットによる犯罪被害、ゲーム依存症等生活習慣の改善を促した。	・登校中の自転車と自転車の軽微な接触事故が増加しているため、引き続き注意喚起を行うとともに時間に余裕のある生活を促す。 ・生活習慣は保健相談部とも協議し、引き続き講演などを通して注意喚起していきたい。
教育活動	●心の教育	感謝や思いやりの心の醸成	・清掃活動を通して勤労意欲や環境美化意識を高めるとともに「学校を綺麗にしようという」意識を持たせ、ゴミゼロを目指す。	・全校集会等を利用し、生徒美化委員による「学校をきれいにしよう」という呼びかけを徹底して行う。	B	・先生方の呼びかけや、美化正副委員長らのゴミ回収指導、各クラスの美化委員のチェック等がうまく機能し、各教室のゴミの分別、持ち帰りはかなり実行できた。	・クラス減に伴う掃除区域の見直しを進めているが、校内美化の質を落とさないようにしながら、さらなる掃除区域の検討を行いたい。
⑥「高校魅力づくりの推進」							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方法			
学校運営	○情報発信	ホームページの充実	・ホームページの更新頻度を高め、地域、保護者、生徒が見たくなるページの工夫を行う。	・学校行事終了後1週間以内に速やかにホームページの更新を行う。また、トップページに更新履歴を残す。	B	学校ホームページの切替作業と重なり、現行ホームページについて速やかな更新ができなかった。	新教育情報システムへの移行でホームページも新しいになり、イベントカレンダーでの学校行事案内や進路だよりの新設などホームページの充実を今後も進めていく。
教育活動	○魅力と活力ある高校づくり	・自主的な行動と地域貢献 ・地域と連携して高校の魅力高める取り組みの推進	・自ら考え行動する ・自主的な校内外のボランティア活動を通して、奉仕の精神、他者への思いやりの心を育む。 ・商品開発や販売実習をおとして地域連携や高校の魅力を高める	・行事等を生徒が自ら企画し、運営していく。常にチャレンジする姿勢を持ち、自由な発想と発言のできる環境作りを行う。 ・校内外の清掃活動やボランティア計画、施設への慰問活動などを生徒が企画し実施する。 ・クローバープロジェクトの推進を図り、地域活性化に貢献する	B	・町内の清掃活動を行い、感謝された。 ・インターアクト、ダンス、吹奏楽部を中心にボランティアでの慰問などを積極的に行った。 ・流通経済課による「植栽」をテーマに特産品開発の発表を行った。	・清掃活動以外の貢献策を考えたい。 ・校内外へ積極的に広報するなど様々な活動を続けていく。 ・継続的に行うことで、地域との密着度を高めていきたい。
教育活動	●健康・体づくり	・望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ・心身の健康	・保健だよりやアンケートを通して朝食をとることの意義の理解・啓発を行い、朝食をとって登校する生徒の割合を90%以上にする。 ・部活動の活性化をより進める。	・「保健・食育だより」を毎月発行する。 ・食について生徒・保護者へのアンケートを実施し、朝食等の大切さについて保護者に理解を求める。 ・生徒全員が部活動に加入し、積極的な活動を行う。	A	・生徒保健委員会の活動の一環として、保健・食育だよりを毎月発行し、健康に関して啓蒙活動を行うことができた。 ・生徒保健委員会の主導で熱中症予防指導を行うことができた。また、食育アンケートを通して、生徒が朝食をとることの大切さを再認識し、日頃の食習慣を見直すよい機会になった。 ・運動部の強化と文化部より一層の活性化を進めて行く。	・生徒保健委員会の活動で、学校内の環境衛生の維持・向上に取り組んでいる。また、「保健・食育だより」の内容も朝食の大切さに加え、日本の伝統食や季節の食材についても調べて記載しているので、支援していきたい。
⑦「教職員の研修強化、ICT活用教育の推進をする」							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方法			
学校運営	○教職員の資質向上	教材研究や研究授業の積極的開催による授業力の向上	・教科ごとの研究授業を複数回実施するとともに、他教科職員の研究授業にも積極的に参観する。	・全職員が協力して研究授業の指導法の検討を行う。効果的指導方法の共有を図り、自己の授業スタイルの研究を深め、授業力向上を図る。	B	・教科毎に代表を決めて実施することができた。 ・教科を問わず積極的に複数回参加する職員もあつたが、実施授業時間との兼ね合いで参加が困難であったり、短時間になることもあった。	・引き続き、新学習指導要領による授業展開の研究を各教科毎に行う。 ・各科の特色に根ざした、学校全体のカリキュラムを検討、作成する。
教育活動	○教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	新たな学び方としてのICT活用	・生徒が主体的で深い学びのできる教材を教科ごとに研究する。 ・生徒への授業評価アンケートにより、ICTの利活用が効果的であるという生徒の割合を80%以上にする。	・他教科とも共同の授業研究会を実施し、優れた指導方法の共有を図る。 ・研究授業や合評会などへ積極的に参加し、全職員で教材や指導方法について協議する。	B	・生徒へのICTの利活用アンケートにより、全学年90%を超えて活用に満足しているという結果であった。 ・初任者の研究授業等において、ICTを利活用した各教科の教材や指導方法について、協議する機会が増えた。	・SEI-Netのアンケート機能やメッセージ機能の利用、SKYMENUの機能の紹介を行う。 ・デジタル教材の共有化、だれでも自由に簡単に授業で使えるデジタル教材の普及などソフト面での環境整備。